

有言実行！！「意識改革への挑戦」

～ 排泄ケアからの取り組み～

施設名：沖縄県 介護老人保健施設 桃源の郷

発表者：平良雅子

西田拓己・與那嶺司・宮城祐輔

喜納朱里・金城奈美乃

【 はじめに 】

様々な意見や取り組みは職員の経験や価値観の違いなどで対策が継続できない現状がある。

周囲からは「意識の問題」との評価もあるが、“人員不足により対策まで手が回らない”現実もある。職員は介護の質を高める為に増員希望。経営者は人件費の問題があり増員が困難。正反対の意見の中で葛藤や不満が多くなる。

そこで、各利用者に対して最良のケアに取り組むことを理想に掲げ、双方が納得する以下の取り組みを行った。

入所率の底上げと職員数の希望を設定

職員の意識改革（課題の多い排泄ケア）

【 方法 】

排泄に対して現状の問題点を調査

問題を簡素化し関係者に分類。目標を立案

【 取り組み 】

期間 H19 年12月～ H21 年1月

業者の変更（従来から花王へ変更）

オムツ勉強会（職員対象・家族対象）

オムツ変更（個人に合ったパットの選択）

業務改善 比較表作成（コスト削減）

【 変化 】

他職種の協力もあり、月を追うごとに入所率が上がり、職員数も配置基準に近づく。大幅な居室変更も実施し体制に安定感が出る。

業務を見直すことで、排泄以外の課題に多く直面するが、人員が揃ってきている今、「介護の質」「職員の質」を考え、実行するといった発想に変わってきた。

【 結果 】

期間 H20 年4月～ H21 年1月

・入所率 月平均 77,4名（短期含む）

・オムツ代 年間 558,752 円削減中

・個別の排泄ケアの土台作り

・尿臭の減少 ・業務の簡素化

【 考察 】

指示を待つのではなく、現場職員から自発的に目標を立て、取り組みを実行することで責任感や緊張感が意識を高め「働いている」実感を得た。又、経営者の柔軟な姿勢や他職種の協力もあり、職員が前向きな意識に変わった。

これからは、メリットある施設運営と利用者に最良のケアが提供できる職場創りの為、曖昧な言葉や不満で逃げるのではなく、課題に対し明確な目標と結果を出す行動で立ち向かいたい。

理想を現実にする為には、現場職員が中心にならなくてはいけないと改めて実感する。

【 おわりに 】

今回の取り組みでは、業者変更とコスト削減、オムツの見直しなどは取り組めたが、利用者の排泄時間の確立までは結果が出せなかった。

今後は、各利用者の排泄パターンを追及すると同時に、解決すべき多くの課題から、様々な「有言実行」に挑戦し1つずつ結果を出したい。

又、職員が付き添い、家族と共に外食や外出（在宅で介助方法の実践）など計画している。

利用者の「生きがい」を優先に考え、多くの「楽しみ」を現実に創っていきたい。

